

山の傾斜を利用して建築された9号館。8階の屋上から、より高い位置にあるほかの校舎へ移動できる。

# ぶらり 生田 キャンパス周辺

小田急線向ヶ丘遊園駅前の商店街を抜けて、住宅街を通り、多摩丘陵の坂を上ると、山の上の広々とした生田キャンパスに辿り着く。郊外ならではの緑豊かで、のどかな風景に彩られた、生田キャンパスとその周辺の魅力をご紹介します。

→ 9号館屋上からは東京新宿副都心から多摩丘陵まで見渡せる。



↑ 生田キャンパスの東には広大な生田緑地が広がる。遊歩道を歩けば、野鳥や虫の鳴き声に包まれ、タヌキなどの野生動物に遭遇することも。

← アクティブラーニングの核を担う2号館、大学院の研究拠点の3号館。ガラスを多く使用し、空と大地に溶け込むようにデザインされている。

## 生田緑地

生田緑地の豊かな自然を散歩してみよう。緑地内にある川崎市運営の博物館や美術館を巡るのもまた楽しい。



↑生田緑地は1941(昭和16)年に都市計画決定された都市計画緑地で、幾筋もの散歩コースがありメタセコイアの本(写真)など、豊かな自然を享受できる。

↑「芸術は爆発だ!」の言葉でも知られる川崎市生まれの芸術家、岡本太郎。生田緑地の中には「川崎市岡本太郎美術館」がある。オブジェや絵画など岡本作品の展示のほか企画展を開催。写真の山の頂に見えるのは生田キャンパス3号館だ。

↓春、秋の開花時期に一般開放される「生田緑地ばら苑」。皇室にちなんだバラを集めたロイヤルコーナー、英国のバラを集めたイングリッシュローズコーナーなどがある。



↑生田緑地に生息する昆虫や鳥、動物の標本を展示し、川崎の自然を学べる「かわさき宙と緑の科学館」。最新の投影機を備えたプラネタリウムは、「世界最高水準の星空」と呼び声も高い。



↑江戸時代の古民家を中心に、水車小屋、農村歌舞伎舞台など、国・県の重要文化財を含む25の文化財建造物を展示する「川崎市立日本民家園」。

# 通学路

商店街あり、住宅街あり、川あり、山ありで、変化があって面白い駅からの通学路。大学周辺には学生向けのアパートも多く、一人暮らしをする学生も多い。



↑小田急線の線路沿いの通学路。このカーブでは電車がスピードを緩めて走るため、鉄道マニアにとっては絶好の撮影スポット。



↑→通学路の途中にある“ベーグルカンパニー”。北海道産の小麦粉と天然酵母を使ってじっくり発酵させたこだわりのベーグルが毎日30種類近く並ぶ。



## 生田キャンパス 周辺MAP



by J.B

## 向ヶ丘遊園駅周辺

駅周辺には多くの飲食店のほか、スーパーマーケットや本屋、カラオケ店などがある。



↑向ヶ丘遊園駅南口駅前



↑向ヶ丘遊園駅北口。専大行きバスが発着するバスターミナル、サテライトキャンパスなどがある



←↓1885（明治18）年創業の“御菓子司 寿々木”。かすかな塩味が甘さを引き立たせる塩大福や、塩ゆでした赤えんどう豆を使った豆大福が美味。



## 懐かしの情景“モノレール”

駅名の通り、かつて近くに遊園地があった。1927年から2002年まで営業し「花と緑の遊園地」として親しまれた。南口駅前から向ヶ丘遊園の正門まではモノレールが走り、生活の足としても利用されていたが、2002年、向ヶ丘遊園地の閉園とともに廃線となった。



写真提供/古町鉄男



←↓駅南口を出て目の前のメロンパン屋“プリメーロ”。外はサクサク、中はしっとり柔らかなのが人気のメロンパン。そのほかにもフレンチトーストやメロンクロワッサンなどが人気。写真はこの店でアルバイトしている専大生の板橋麻夏さん（経営4）。



↑向ヶ丘遊園駅から電車で新宿へ。一つ目の登戸駅を通過してすぐ多摩川に差し掛かる。下流では体育会カヌー一部が練習を行っている。



↑今年5周年を迎えた本格イタリアン・レストラン“クッチーナイタリアーナ サンジョルジョ”。落ち着いた店内で、絶品の窯焼きピザとパスタをご賞味あれ。

